

天童の鈴立山若松寺、通称若松観音に元治元年（1864年）、和算の上達を願って奉納された算額に、佐藤孝大梁（長谷川流）の門人として服部武右衛門の名があります（写真）。彼を含めた25人の名が連ねられている中に、武右衛門をはじめ、文新田の斉藤彦兵衛、落合の秋葉岩吉の名もあり、中野目に近い本町東部の人たちに和算が盛んであったようでした。また、この算額奉納以前に、天保13年（1842年）に奉納された算額には、西小路の高橋栄作の名が見られることから、おそらく文化文政の頃から町内に和算に関心を持つ者がいたことを示しています。

また、明治2年（1869年）寒河江の平塩の熊野神社に奉納された算額には、服部武右衛門信隆門人と記されていることから、武右衛門が師匠格になっていたことがわかります。そして、長谷川流から最上流に流派を変えたことも記されています。



若松寺の算額

超すものが5枚もあって、その大きさと枚数でよく知られており、門人の中に本町に住んでいた人の名も確認できま

す。斉藤彦兵衛、横山栄作、若林弥平、鈴木惣吉、鈴木和造、渡辺権治良、渡辺甚蔵、渡辺万治郎、井上重治郎、武田三蔵の名もあります。これらことから、服部武右衛門の和算家としての名は広く知れ渡り、この界隈の重鎮となっていたことが推察されます。

※引用 中山町史 中巻

第10章第2節 教育

私たち地域おこし協力隊です！ No.54



あけましておめでとうございます。地域おこし協力隊の稲垣です。私にとって昨年は、調査報告書の制作や東京と山形を行ったり来たりして修士論文を書いたり、新年度へ向けた準備など盛りだくさんの1年で、一瞬で過ぎ去りました。

さて、文化財に関わる仕事をしていると「なぜ歴史や文化を残すのか」と尋ねられます。昔の出来事なんて考え方も暮らし方も変化した現在では、一見すると無用のもの



柏倉家の崩れかけた炭小屋。昔は敷地の北側にも建物があったそうです。

思えるかもしれません。しかし、私は活動の中で中山町や柏倉家の歴史に触れたことで、人々の中にこれまで培われてきたもの、息づいているものがあると感じられました。自然と残されてきた歴史や文化があるのだと思います。

大晦日やお正月、成人式など年末年始は多くの方が日本の伝統を身近に感じる時期でしょう。実家に帰って家族や友人と過ごす中で安らぎやくつろぎ、さまざまな思いを感じたかもしれません。具体的になにをどう感じるのと言えなくても、きっと自分を形作るなにかがあるからです。ある地域の方々にとってそんなものの元になっている存在が、日本中にあるのだと思います。

●協力隊への問い合わせ先●

伊藤 ☎662-2114（産業振興課） / 稲垣 ☎662-2235（教育課） / 高橋 ☎662-2223（総務広報課）